

コンテナ苗栽培での施肥による栽培期間短縮

スギ、ヒノキは、伐採の翌年以降に植栽しますが、コンテナ苗は掘り取り時に根を傷めず、いつでも植栽できます。その利用によって伐採から植栽まで一貫した作業体系が組めるため、林業用機械運搬、稼働経費や人件費などの低コスト化への期待が高まっています。しかし、従来の苗に比べて単価が高いことから、安価で安定した供給が求められており、経費削減対策として、栽培期間短縮のための効果的な施肥（元肥施用量）について調査を始めました。

5 月に開始して約 3 か月後の中間調査では、施肥区は全て伸長成長がみられましたが、8 g と 10 g では、施肥量過多による「肥料やけ」をおこしたことから枯損率が高く、元肥施肥量は 1～5 g 程度が最適であることがわかりました。今後は成長量と追肥について調査する予定です



写真②：施肥区(奥)と比べ無施肥区(手前)は色が薄い

試験区	施肥量	枯損率(%)	
		スギ	ヒノキ
1区	0g	8.8	3.1
2区	1g	5.0	10.0
3区	5g	18.1	10.6
4区	8g	37.5	—
5区	10g	56.9	31.9

表 元肥施用量による苗木の枯損率



写真①：2区(左)と1区(右)